

2025年12月24日所長会見 所感

- 本日、私からは、6号機の使用前確認変更申請について、お伝えさせていただきます。
お手元の資料①をご参照ください。
- 先月21日に、花角知事が示されたご判断に対して、新潟県議会において、様々なご議論をいただき、12月22日に、花角知事を信任する旨の決議が行われました。
- また、知事から当社に対して、発電所の運営について安全最優先の取組を、行動と実績で示すよう要請をいただいております。
柏崎刈羽原子力発電所の安全を預かる発電所長として、大変、厳粛に受け止めており、身が引き締まる思いです。
- これらを踏まえ、原子炉を起動し、実際の蒸気を使用した状態での健全性確認を行うために、本日、使用前確認変更申請書を、原子力規制委員会に提出いたしました。
申請書には、制御棒を引き抜く、原子炉の起動日を2026年1月20日、原子炉施設の使用開始予定日、いわゆる営業運転開始日を2月26日と記載しています。
- 今後、原子力規制委員会からの試験使用承認が得られた際には、添付資料にあるような検査工程で、原子炉隔離時冷却系や、高圧代替注水系などの、使用前事業者検査を含む、設備の健全性確認を進めてまいります。
- ただし、原子炉を起動するのは約14年振りとなります。
そのため、これまで以上に緊張感を持って、一つひとつの工程で慎重に確認を行っていかなければなりません。

- 起動までの間、バルブの開閉状況など、しっかりと現場を確認するとともに、起きる可能性のある不具合を洗い出し、その対応方針まで定めた上で、原子炉起動後の健全性確認を実施してまいります。
- その中において、様々な気づきが得られると考えております。営業運転に向けて、万全の状態に仕上げていくためにも、気づきがあれば立ち止まり、的確に対処を行ってまいります。
- 安全の追求と信頼を得る取組にゴールはありません。私としては、この度の申請が運転に向けたスタートと認識しております。
福島第一原子力発電所の事故を経験した者として、安全について常に問いかける姿勢を忘れることなく、柏崎刈羽原子力発電所で働く全ての方とワンチームになり、今一度、気を引き締めて、安全性の向上を追求し続けていく所存です。
- また、こうした取組を、新潟県の皆さんに、分かりやすく丁寧にお伝えし、皆さんから信頼いただける、地域に根差した発電所となれるよう、行動と実績で示し続けてまいります。
- 本日、私からは以上です。